

# 行政改革事業

社会変化に対応した効率的な市政を推進するための審議を進めています

総合政策課



最終答申書の概要を説明し市へ提出しました

## ■活動内容と今後の予定

H 13

6月 行政改革懇談会発足

11月 第1回中間答申書を提出

H 14

3月 第2回中間答申書を提出

10月 最終答申書を提出

H 15

3月 行政改革大綱を策定

4月 行革市民会議発足

※そのほか懇談会を9回、部会を7回開催

地方分権、市町村合併など、急激な社会の変化に対応した効率的な行政を推進するためにはどうすればよいのかといった、行政改革について審議するため、平成13年6月に「行政改革懇談会」（堀部道朗会長）が発足しました。

懇談会は、公募市民を含む13人で構成され、これまでに9回の懇談会と、7回の部会を開催しました。

中間答申の後10月11日には、それらの審議内容をまとめた最終の答申書（注）を市に提出しました。

今回の答申書は、目標数値や達成年度などを具体的に挙げ、より実効性を高めようと、市民公募を含めたメンバーで構成する「行革市民会議」の設置を求めています。

今後、市はその答申書をもとに、行政改革大綱を策定するとともに、実施計画も策定し、改革を推進していきます。

## 参加者談



飯田昭徳さん  
（本郷町）

### ■経験や立場を生かした市民参画を

行政の問題は、自分たちの生活に関わる大切な問題です。以前からそんな思いがあったために、「行政改革懇談会」に参加できることになった時はうれしく思いました。会議に参加してみると、「行政改革」とは容易ならぬ問題で、自分が参加してよいのかと思ったほどでした。

しかし、懇談会を重ねるうちに、「行政」がどのようなものであるかわかるようになりました。

この「行政改革懇談会」のように、市民が自分の意志で行政に参画できるということは大変良いことです。今後は、小さな問題についても住民の皆さんの声が反映されるような体制づくりがなされるよう願っています。

「市民参画」はまだ始まったばかりで、関心のない人が多いようですが、徐々に浸透していくのではないかと思います。

行政に参画することは、その人の一言一句、行動に責任が課されます。だからといってしり込みをせず、住民の皆さんの経験や立場を活かし、「市民参画」にチャレンジしてもらいたいですね。

（注） 答申書の内容は市のホームページに掲載しています。 <http://www.city.minokamo.gifu.jp/kaikaku.pdf>